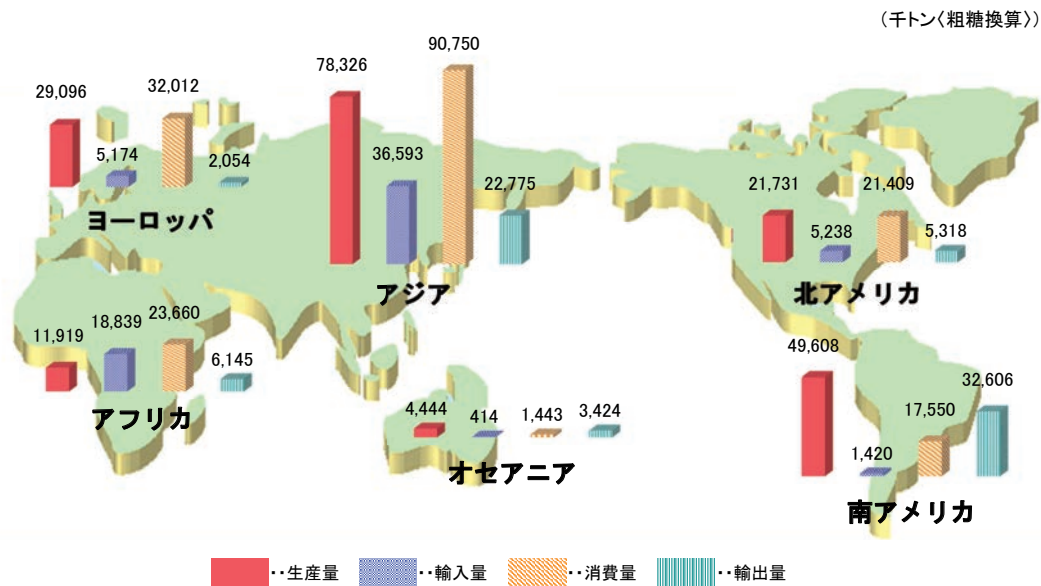


## 砂糖の国際需給

調査情報部 峯岸 啓之

### 1. 世界の砂糖需給（2022年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2022/23年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2022」  
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1992/93	43,275	110,780	28,551	109,895	29,700	43,011	39.1
1997/98	53,920	126,205	35,557	120,805	39,806	55,071	45.6
2002/03	60,687	149,947	42,690	140,189	45,359	67,776	48.3
2007/08	62,150	166,772	45,454	158,489	48,802	67,085	42.3
2012/13	53,771	185,867	60,712	173,346	63,294	63,710	36.8
2017/18	68,310	195,571	65,920	180,930	68,088	80,783	44.6
2018/19	80,783	186,591	61,001	182,922	61,696	83,757	45.8
2019/20	83,757	181,369	69,390	182,015	71,932	80,569	44.3
2020/21	80,569	181,996	67,886	185,420	68,257	76,774	41.4
2021/22	76,774	186,450	69,987	187,851	71,342	74,019	39.4
2022/23 (2022年12月予測)	74,019	195,124	67,679	186,824	72,322	77,676	41.6

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2022」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2023年4月号の掲載予定となります。直近の内容は2023年1月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_002836.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002836.html)

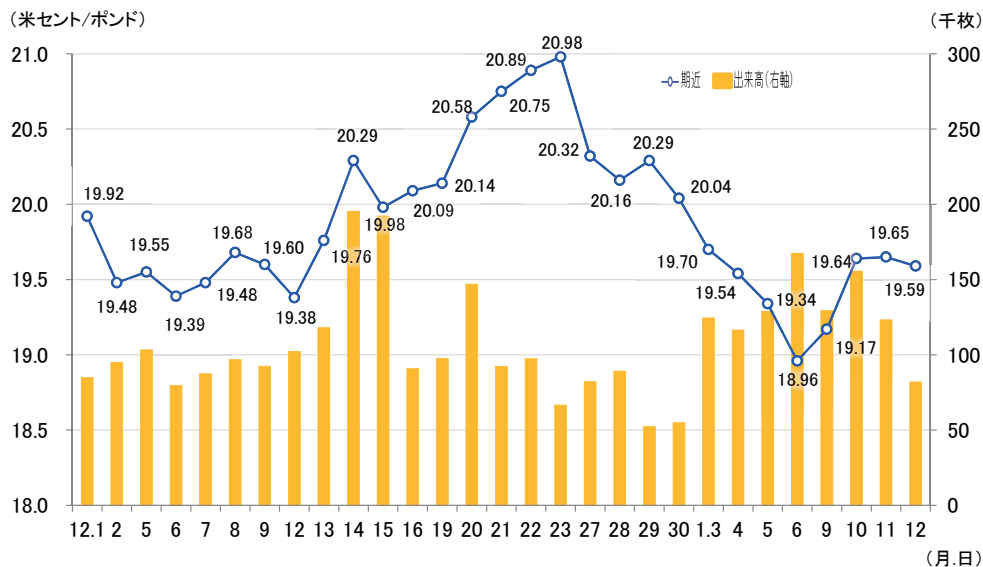
「主要国の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_002837.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002837.html)

## 2. 国際価格の動向

### ニューヨーク粗糖先物相場の動き (12/1 ~ 1/12)

～ 12月後半にかけて21セントに迫る勢いで上昇し、約6年ぶりの高値を記録～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)  
注：期近3月限の値。

2022年12月のニューヨーク粗糖先物相場（3月限）の推移を見ると、12月1日は、前日までの流れを受けて続伸し、1ポンド当たり19.92セント（注1）をつけたが、2日は、米国大手金融企業が22/23年度の世界の砂糖余剰在庫量予測を390万トンから520万トンに引き上げたことから、同19.48セントと値を下げた。なお、当該企業は、2023/24年度のブラジル中南部の砂糖生産量を前年度比で5.2%の増加と見込んでいる。5日は、インドの減産見通しとタイの大雨による収穫遅延の報道を受け、同19.55セントと上昇した。6日は、原油価格が11カ月ぶりの安値となったことから（注2）、同19.39セントと下落した。8日は、欧州砂糖製造者協会（CEFS）が22/23年度のEUの砂糖生産量を前年度比7%減と予測したことから、同19.68セントと上昇した。12日は、ブラジルの砂糖生産増加見込みから、同19.38セントまで値を下げた。

13日は、米国労働省が発表した11月の米消費者物価指数の伸びの鈍化をきっかけとしたドル安（注3）と原油価格の上昇により反発し、同19.76セントと値を上げた。14日は、インドとタイの砂糖輸出量減少の見通しから、世界的な砂糖供給量減少の懸念が強まり、同20.29セントとさらに押し上げられた。15日は、インド政府が砂糖の輸出許可枠の追加を検討すると公表したことから、同19.98セントと値を下げたものの、16日以降は、続く供給不足への懸念から続伸し続け、23日は、同20.98セントと約6年ぶりの高値を記録した。27日は、ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）が22/23年度の砂糖生産量を8月に予測した3390万トンから3640万トンに上方修正したことから供給見通しの改善を受け、同20.32セントと急落した。29日は、ショートポジションをカバーするための買い戻し（注4）が入ったことなどから、同20.29セントまで回復し

たが、30日は再び下落し、同20.04セントとなった。

1月に入って下落傾向が続き、3日は、インド製糖協会（ISMA）が同国の22/23年度の10月から12月の砂糖生産量を前年度比3.7%増と公表したことから、同19.70セントに下落した。4日以降も原油安やリアル安により引き続き値を下げ、6日は、2カ月ぶりに同19セントを下回った。9日以降は、原油高などを受けて反転し、10日は、同19.64セントまで上昇した後、横ばいで推移した。

（注1）1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

（注2）一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料

であるバイオエタノールの需要も減少する。バイオエタノールの需要減少により、その原料作物（サトウキビ、てん菜など）のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増えると想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

（注3）粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してリアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が低下する。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

（注4）売買差益を狙い、将来の値下がり期待して売りの持ち高を取っていた金融資産を、決済のために買い戻すこと。

### 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2023年1月時点予測）

#### ブラジル

##### 2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

###### 【サトウキビ】

収穫面積：855万ha（前年度比1.5%減）

生産量：6億600万トン（同5.1%増）

###### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3968万トン（同5.5%増）

輸出量：2917万トン（同7.7%増）

#### 2022/23年度の砂糖生産量および輸出量は減反ながらも増加を維持する見込み

2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、前年度の不作による苗不足や大豆やトウモロコシなど他の作物との競合から855万ヘクタール（前年度比1.5%減）とわずかに減少すると見込まれる（表2）。一方でサトウキビ生産量は、中南部地域が平年より乾燥した後、9月以降は降雨が続いて収穫作業が遅れたものの、その他の地域ではサトウキビの生育に良好な条件が続いたことから6億600万トン（同5.1%増）とやや増加すると見込まれる。砂糖生産量は、7月から相次ぐガソリン卸売価格の引き下げやガソリンに対する連邦税の免税措置延長を受けて、相対的に同国内でのバイオエ

タノール需要減少から砂糖仕向けの増加が見込まれることや、中南部地域の気候が良好で、雨季開始前に予想以上のサトウキビが粉碎されたことなどから、3968万トン（同5.5%増）とやや増加すると見込まれる。輸出量は、インドの輸出量が予想を下回ったことや、砂糖への仕向け増を背景に2917万トン（同7.7%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

#### ブラジルサトウキビ産業協会、ガソリンの免税延長による損失を試算

2023年1月3日付けの現地報道によると、ブラジルのルーラ新大統領は、22年12月末で期限を迎えたガソリンに対する連邦税の免税措置延長を発表

した。これを受けてブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）は、新たな期限となる2月28日までの60日間で、エタノール産業界全体で30億レアル（約786億6000万円<sup>（注）</sup>）の損失が生じるとの試算を発表した。また、この免税措置延長によりガソリンとエタノールが同じ税体系になることに対し、環境保護の観点から異なる製品をあたかも同等に取り扱っているとの不満を示している。

ボルソナロ前大統領は、22年10月の大統領選での再選を目指すべく、同年7月にガソリンの連邦税を引き下げたのに対し、ルーラ新大統領は、同年11月に行った就任前の演説で免税措置の見直しを表明していた。免税はガソリン消費を刺激する一方

で、競合燃料であるエタノールは価格競争力を失い、影響を受けることとなる。また、エタノールの供給量の減少は、エタノールの製造残渣<sup>（ざんさ）</sup>を原料とするバイオガスやバイオメタン分野にも影響が及び、この分野で2億レアル（51億2400万円）規模の投資計画があったもの、免税措置延長により停止される可能性が生じているとされている。

（注）1レアル=25.62円（ブラジル中央銀行の12月末TTS相場：1レアル=5.22米ドル、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の12月末TTS相場：1米ドル=133.70円を使用して算出）。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

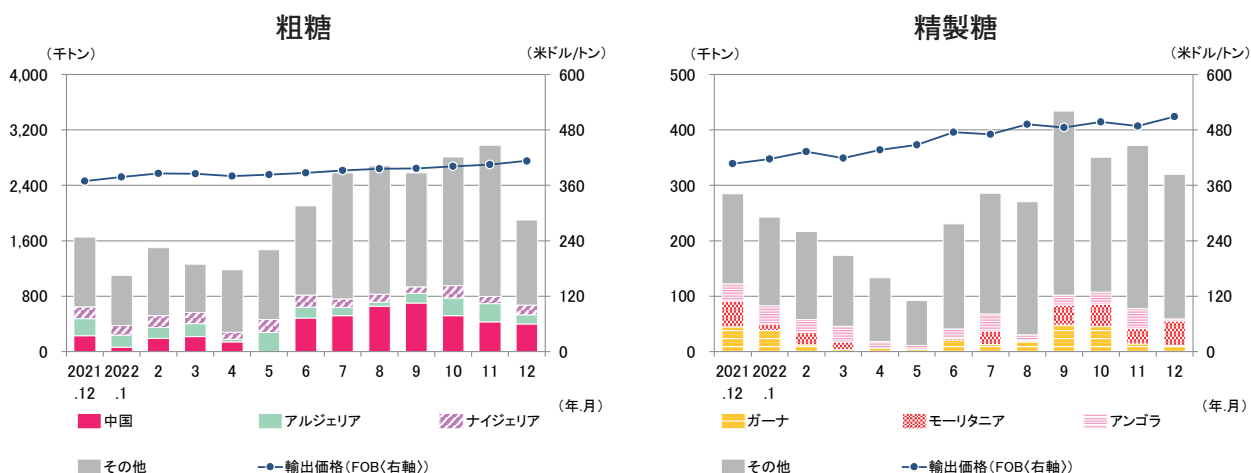
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (12月予測)	2022/23 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,599	8,651	8,679	8,520	8,548	▲1.5%	
サトウキビ生産量	642,677	657,432	576,707	604,000	606,000	5.1%	
砂糖	生産量	31,804	44,642	37,620	39,480	39,680	5.5%
	輸入量	6	8	9	8	8	▲10.6%
	消費量	10,842	10,996	10,666	10,506	10,506	▲1.5%
	輸出量	20,321	34,042	27,088	28,978	29,172	7.7%
	期末在庫量	3,778	3,390	3,265	3,269	3,275	0.3%
	期末在庫率	12.1	7.5	8.6	8.3	8.3	0.4ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

## インド

### 2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：546万ha（前年度比5.7%増）  
生産量：4億6135万トン（同3.7%増）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3748万トン（同3.2%減）  
輸出量：866万トン（同30.6%減）

### 2022/23年度の砂糖輸出量は800万トン台を維持する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、前年が豊作だったことに加えサトウキビ価格の上昇によりさらに拡大するとの予測から、546万ヘクタール（前年度比5.7%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。サトウキビ生産量は、主産地であるマハラシュトラ州やカルナータカ州における降水量の偏りや日照時間の短さなどによる生育不良から収穫量が減少したものの、最大生産地のウッタル・プラデーシュ州では順調な生育となったことから、4億6135万トン（同3.7%増）とやや増加すると見込まれる。一方で、砂糖生産量は、同国内でのサトウキビのエタノール仕向け量が増加したことなどから、3748万トン（同3.2%減）とやや減少すると見込まれる。輸出量は、同国政府が11月上旬に22/23年度の砂糖輸出枠を600万トンと発表したものの、前年度と同規模の生産が見込まれる中で21/22年度と同様に輸出枠の追加承認が想定されるとして、20/21年度を上回る866万トン（同30.6%減）が見込まれる。なお、同国の製糖工場はこれまでに550万トンの砂糖輸出契約を締結しているとされ、そのうち180万トンが22年末時点で国外に輸出されている。

### インド自動車工業会とブラジルサトウキビ産業協会が共同展示

2023年1月13日から18日までインドで開催された自動車展示会「Auto Expo 2023」において、

インド自動車工業会（SIAM）とブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が共同で、エタノールをテーマに出展した。

展示は三つの区画に及び、一つ目は、エタノールの利点やフレックス燃料車などの技術紹介を、二つ目は、エタノール燃料による排ガス削減効果をVR体験できるプログラムを、三つ目は、UNICAとSIAMによるバイオマスやバイオエネルギーに関連する最新の情報がそれぞれ展示され、技術的進歩、技術基準、規制、公共政策、持続可能性に関するトピックなどが紹介された。なお両者の共同声明では、このような自動車展示会でバイオ燃料に焦点を当てることは、今回が初めての試みとしている。

また同展示会では、自動車分野におけるエタノールとその混合物の利用促進に関するインドとブラジルの二国間協力に基づき、UNICAとSIAMはCoE<sup>（注）</sup>を立ち上げた。SIAMの事務局長は、エタノール技術と投資を組み合わせ、低炭素モビリティという共通の目標を達成するためにUNICAと提携することはとても有益であると述べた。

（注）CoE（Center of Excellence）：地理的・組織的な境界を越えて、多様なチームの能力や知識、専門性を結集し、その領域で模範となる際立ったものを創出する拠点。今回の展示会ではヴァーチャルによるもので、来場者の情報発信源（knowledge portal）として機能するもの。

表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

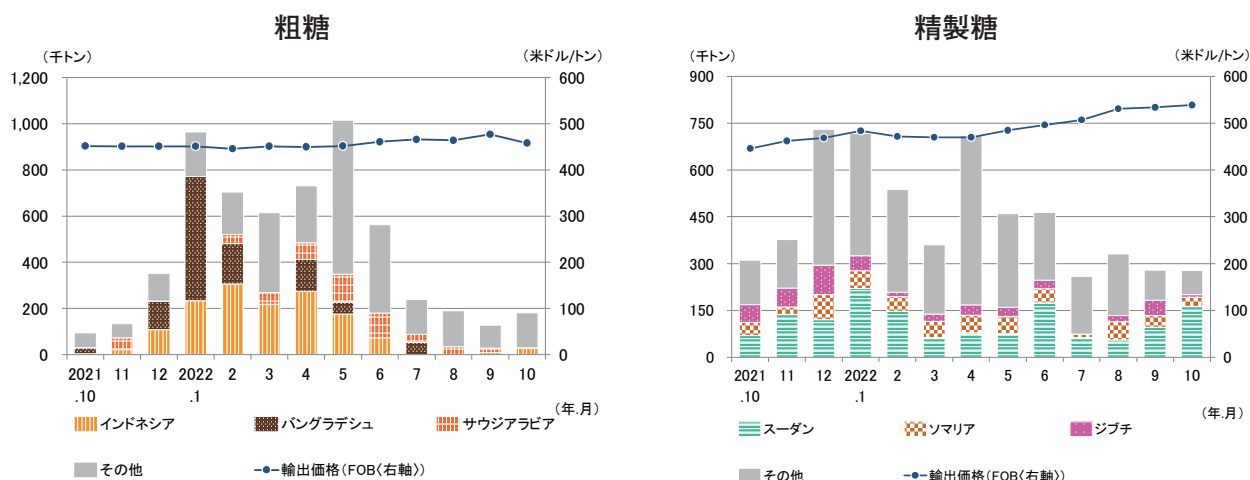
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (12月予測)	2022/23 (1月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	4,642	4,906	5,171	5,464	5,464	5.7%
サトウキビ生産量	369,805	421,687	445,092	468,754	461,347	3.7%
砂糖	生産量	29,544	33,642	38,731	38,580	▲3.2%
	輸入量	1,686	1,022	420	216	2.8%
	消費量	27,324	28,679	29,376	29,916	1.8%
	輸出量	8,254	8,538	12,468	9,255	▲30.6%
	期末在庫量	10,510	7,956	5,264	4,781	▲12.6%
	期末在庫率	29.5	21.4	12.6	12.2	11.9

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

## 中国

### 2022/23年度(10月～翌9月)の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：113万ha(前年度比1.0%増)

生産量：7185万トン(同0.4%減)

#### 【てん菜】

収穫面積：14万ha(前年度同)

生産量：748万トン(前年度比5.9%増)

#### 【砂糖(甘しや糖およびてん菜糖)】

生産量：1064万トン(同3.0%増)

輸入量：662万トン(同6.2%減)

### 2022/23年度の輸入量は増産と在庫積増を受けかなりの程度減少する見込み

2022/23年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、113万ヘクタール(前年度比1.0%増)

とわずかに増加すると見込まれる(表4)。サトウキビ生産量は、主産地の広西チワン族自治区の一部で熱波や干ばつの被害を受けたものの、その他の地域での被害は軽微であったことから、7185万トン

(同0.4%減)とわずかな減少にとどまると予想される。一方で、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシ価格高騰を背景に2022年3月の政府による穀物増産の呼びかけから他作物への転作が増加したものの、14万ヘクタール(前年度同)と見込まれる。てん菜生産量は、順調な生育により748万トン(前年度比5.9%増)とやや増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビ主産地の広西チワン族

自治区の一部で22年7月から11月まで干ばつが続いたものの、順調に生育していることや、農家へのてん菜栽培を促すために、工場が期初にてん菜の買取価格を過去最高値に引き上げたことなどから、1064万トン(同3.0%増)とやや増加すると見込まれる。輸入量は、20年に引き続き21年も国内生産の不足分を上回る量が輸入され、国内在庫が積み増しされている中で662万トン(同6.2%減)とかなりの程度減少すると見込まれる。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位:千ha、千トン、%)

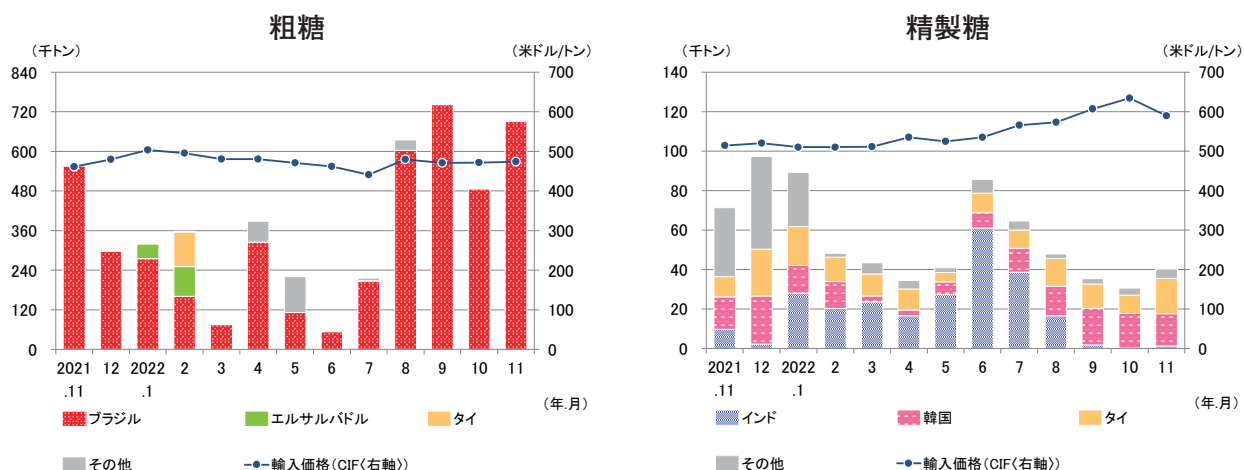
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (12月予測)	2022/23 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,176	1,157	1,119	1,131	1,131	1.0%	
サトウキビ生産量	73,715	72,441	72,136	71,846	71,846	▲0.4%	
てん菜収穫面積	213	231	144	144	144	0.0%	
てん菜生産量	10,900	12,330	7,070	7,484	7,484	5.9%	
砂糖	生産量	11,258	11,530	10,334	10,640	10,640	3.0%
	輸入量	6,661	8,186	7,057	6,686	6,618	▲6.2%
	消費量	16,308	16,740	16,524	16,740	16,740	1.3%
	輸出量	192	132	169	156	172	2.0%
	期末在庫量	12,660	15,505	16,203	16,744	16,549	2.1%
	期末在庫率	76.7	91.9	97.1	99.1	97.9	0.8ポイント増

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2023」

注1: 2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入価格の推移



資料: 「Global Trade Atlas」

注1: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2: 輸入量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

# E U

## 2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

### 【てん菜】

収穫面積：140万ha（前年度比3.8%減）  
生産量：9922万トン（同11.0%減）

### 【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1566万トン（同8.9%減）  
輸出量：99万トン（同24.7%減）

## 2022/23年度の輸出量は、前月予想から引き続き100万トン割れの見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、収益性が高く、価格が高騰しているトウモロコシなどの穀物への転作が進んだことなどから、140万ヘクタール（前年度比3.8%減）とやや減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、今夏の記録的な熱波や干ばつの影響、肥料価格高騰による

施肥の減少、スペインでの豪雨による収穫の停滞などから収量が平年を下回るものと見込まれ、9922万トン（同11.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。砂糖生産量は、てん菜の減産見込みを受けて1566万トン（同8.9%減）とかなりの程度減少すると予想される。輸出量は、砂糖の減産などを背景に99万トン（同24.7%減）と前月予測と同様に100万トンを下回り、大幅に減少すると見込まれる。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (12月予測)	2022/23 (1月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,517	1,474	1,453	1,398	1,398	▲ 3.8%
てん菜生産量	110,102	98,517	111,504	99,616	99,224	▲ 11.0%
砂糖	生産量	16,971	15,101	17,191	15,757	▲ 8.9%
	輸入量	2,230	1,888	2,134	2,674	30.4%
	消費量	17,016	16,742	17,749	17,761	0.0%
	輸出量	1,436	1,262	1,314	989	▲ 24.7%
	期末在庫量	2,347	1,332	1,593	1,281	▲ 18.4%
	期末在庫率	12.7	7.4	8.4	6.8	6.9

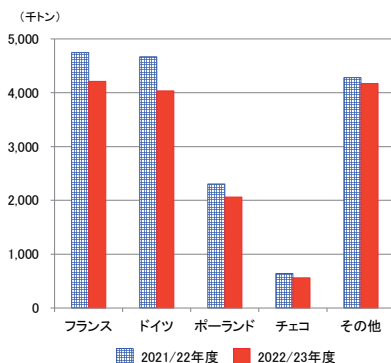
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## （参考）EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し（2022/23年度）（2022年12月時点）

### 砂糖生産量

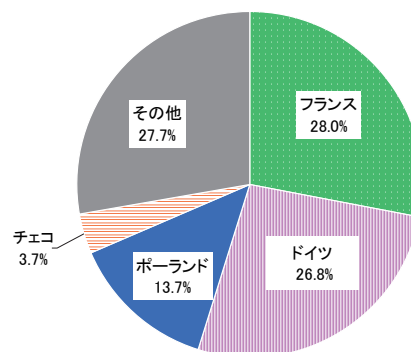


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度は予測値。

### 国別生産割合



資料：欧州委員会



## 4. 日本の主要輸入先国の動向（2023年1月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2021年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比0.03ポイント増）、タイが13.4%（同2.9ポイント増）と、両国が大勢を占めている（財務省「貿易統計」）。

### 豪州

#### 2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比2.3%増）  
生産量：3200万トン（同6.3%増）

##### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：420万トン（同1.9%増）  
輸出量：318万トン（同8.9%減）

#### 2022/23年度の輸出量は、300万トン台を維持する見込み

2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比2.3%増）とわずかに増加すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、2022年3月と7月に主産地クイーンズランド州で洪水をもたらした降雨が収量には良い影響を与え、前年より良好な生育が予想されることから、3200万トン（同6.3%増）とかなりの程度増加すると予想される。

砂糖生産量は、ラニーニャ現象による悪天候から収穫作業が進まず、多くの製糖工場の処理作業が前年同期と比較して遅れており、また、CCS<sup>(注)</sup>の低下が懸念されることから、サトウキビの増産予測に比べて420万トン（同1.9%増）とわずかに増加すると見込まれる。また、輸出量は、前月予測では10年ぶりに300万トン割れが見込まれたが、生産量の上方修正から318万トン（同8.9%減）に引き上げられた。ただし、今年度は依然としてかなりの程度の減少が見込まれる。

(注) 可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

#### サトウキビ輸送のトラック運転手不足を受け、収穫作業の遅滞が発生

2022年12月13日付け現地報道によると、ニューサウスウェールズ州の最北東に位置するノーザンリバーズ地域では、サトウキビの収穫や工場への搬入に必要な大型トラックの運転手が不足しており、数千トンのサトウキビが未収穫のままとなっている。この状況を受け、同地域では製糖企業による大型トラックなどの運転手の募集が行われている。

同地域は22年当初に洪水が発生しており、州内3カ所の製糖工場で大きな被害が生じている。また、洪水や長引く雨天の影響により例年に比べてサトウキビの収穫時期が遅れており、収穫作業は1月下旬まで続く見込まれている。さらに、収穫期間の長期化により、サトウキビが未収穫となることも懸念され、生産者や製糖企業の収入減が危惧されている。

今後、大型トラックや作業機械などのドライバーが確保された場合、製糖期間を2週間ほど短縮することが可能となると見込まれており、サトウキビの生産や製糖作業の効率向上に有効であるとされている。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (12月予測)	2022/23 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	364	354	342	350	350	2.3%	
サトウキビ生産量	30,046	31,074	30,114	30,500	32,000	6.3%	
砂糖	生産量	4,293	4,385	4,123	4,005	4,203	1.9%
	輸入量	17	10	9	16	16	73.9%
	消費量	1,085	1,041	1,042	1,040	1,040	▲0.2%
	輸出量	3,449	3,357	3,485	2,986	3,176	▲8.9%
	期末在庫量	747	744	349	132	352	0.8%
	期末在庫率	16.5	16.9	7.7	3.3	8.3	0.6ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## タイ

### 2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：168万ha（前年度比10.1%増）

生産量：1億1000万トン（同19.5%増）

#### 【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：1247万トン（同16.7%増）

輸出量：875万トン（同8.4%増）

### 2022/23年度の砂糖生産量は大幅に、輸出量はかなりの程度増加する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、前年が豊作であったことや、競合するキャッサバに比べて収益が高い状況にあるといった理由から、168万ヘクタール（前年度比10.1%増）とかなりの程度増加すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、東北地域の低地帯で洪水が発生したものの、洪水の被害がなかった他の地域で収量の増加がみられ、1億1000万トン（同19.5%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、グリーンハーベスト<sup>(注)</sup>の普及を

背景とした梢頭部<sup>しょうとうぶ</sup>や葉などの混入による歩留まりの低下、中部地方での収穫の遅れがあるものの、品質の高いサトウキビの収穫や生産量の増加から1247万トン（同16.7%増）と大幅な増加が見込まれる。輸出量は、大幅な増産を受けて875万トン（同8.4%増）と倍増した前年度から更なる増加が見込まれる。

(注) サトウキビを燃やさず、そのまま収穫する方法。従来、同国ではサトウキビを燃やした後に収穫するのが一般的であったが、大気汚染を引き起こすとの批判の高まりを受け、近年はグリーンハーベストが推進されている。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

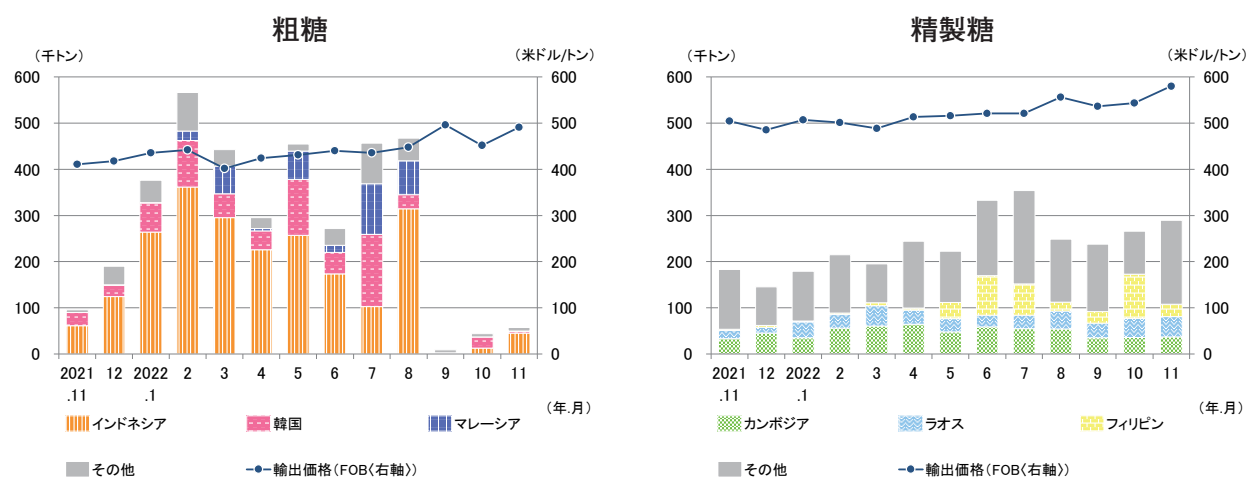
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (12月予測)	2022/23 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,714	1,485	1,525	1,679	1,679	10.1%	
サトウキビ生産量	74,893	66,659	92,071	110,000	110,000	19.5%	
砂糖	生産量	8,801	7,971	10,688	12,473	12,473	16.7%
	輸入量	66	113	156	10	10	▲93.6%
	消費量	3,773	3,592	3,644	3,724	3,724	2.2%
	輸出量	8,461	3,981	8,069	8,746	8,746	8.4%
	期末在庫量	4,532	5,043	4,174	4,187	4,187	0.3%
	期末在庫率	37.0	66.6	35.6	33.6	33.6	2.1ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, January 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。